月着陸の日本人候補7人

過酷な環境で経験重視か

アルテミス計画

米国主導の国際月探査「アルテミス計画」で、日本人の宇宙飛行士2人が月面に降り立つ見通しになった。1人目は早くても2028年とみられ、現時点では宇宙航空研究開発機構（JAXA）の現役飛行士5人に、飛行士候補2人を加えた計7人が対象になる。選定方法は未定だが、地球から約38万キロ離れた月は過酷な環境で、これまでの経験が重視されそうだ。

国際宇宙ステーション（ISS）などで宇宙滞在が累計300日を超えるのは、飛行歴3回の星出彰彦さん(55)と、2回の古川聡さん(60)。星出さんはISS船長も務めた。油井亀美也さん(54)、大西卓哉さん(48)、金井宣茂さん(47)は1回だが、油井さんと大西さんは25年ごろに2回目を控えている。

経験と知名度なら若田光一さん(60)と野口聡一さん(58)だが、JAXAを退職したため対象外だ。年齢への懸念もあり、注目されるのが候補の諏訪理さん(47)と米田あゆさん(29)。月探査も見据えて選考されており、年内にも正式に飛行士に認定される。

JAXA所属の7人はコメントを発表。大西さんは「選ばれるよう、スキルを磨いていきます！」と宣言。油井さんも「難しいミッションであればあるほど、心が躍ります！」と意欲を示した。JAXAは米航空宇宙局（NASA）と調整しながら総合的に判断する。

盛山正仁文部科学相は日本時間の11日、米国で記者会見し「国際連携を進める」と強調。同席したNASAのネルソン局長は「米国だけが月面を歩く時代ではない。日本と一緒に行くことを誇らしく思う」と話した。

アルテミス計画で初の有人月面着陸は26年が目標で、米国人2人とみられる。日本人は28年以降で、2人目には日本が開発する探査車を運転させる思惑もある。

JAXAの宇宙飛行士

	年齢	飛行回数
古川　聡	(60)	2
星出　彰彦	(55)	3
油井亀美也	(54)	1
大西　卓哉	(48)	1
金井　宣茂	(47)	1
諏訪　理	(47)	
米田　あゆ	(29)	

※候補も含む、4月11日現在

精神障害者の運賃半額へ

来年4月開始　JR6社発表

JR旅客6社は11日、精神障害者と介護者の運賃を一定の条件で半額に割引する制度を2025年4月1日から開始すると発表した。小田急電鉄や京阪電気鉄道などの大手私鉄9社も同様の制度を始めると発表。国土交通省によると、既に導入済みの事業者と合わせ、25年4月までにJR6社と大手私鉄16社の全てで精神障害者割引を実施する。

国交省によると、身体・知的障害者の割引制度は、ほとんどの鉄道事業者で導入されているが、精神障害者については23年4月時点で全国の176事業者中106事業者にとどまっていた。障害者団体などからの要望を踏まえ、事業者に導入を働きかけていた。

JR6社によると、障害の重い第1種精神障害者と介護者1人が同一区間を乗車する際や、第1種または第2種精神障害者が単独で片道の営業距離100キロを超す区間を乗車する際などに運賃を割引する。

JR東日本と東海、首都圏の大手私鉄各社は精神障害者とその介護者向けの交通系ICカード「Suica（スイカ）」「TOICA（トイカ）」「PASMO（パスモ）」のサービスを25年4月から始めることも発表。自動改札機にタッチすれば割引が適用され、バスでも使える。

水原氏窃盗認める

米紙報道　減軽求める

水原一平氏

【ロサンゼルス＝共同】米紙ニューヨーク・タイムズ電子版は10日、大リーグ、ドジャースの大谷翔平選手(29)の元通訳水原一平氏(39)が、金を返済する手の資金を盗査当局に対し話だとして、は、捜査が急かっているとたという。

大谷選手の金が本人に通う、水原氏が変えることが当局はつかんる。当局は被で伝えられた（約6億8千る可能性もある。水原氏とため、大谷選を聴いたという。

水原氏につャースの開幕韓国・ソウル

越前町の鈴木さん 演奏会で披露へ

能登ヒバの二胡

復興の象徴に

被災地思い準備進める　鯖江で26日開催

復興のシンボルになってほしい―。越前町在住で二胡（にこ）とギターのアコースティックデュオ「2strings（ツーストリングス）」として県内で演奏活動をしている鈴木隆志さん、裕美さん夫妻が、石川県の県木である「能登ヒバ（アテ）」で作った二胡をコンサートで披露する。能登半島地震で被災された人たちのためにも心を込めて演奏したいと準備を進めている。（福田正美）

金沢市で木材卸売業「フルタニランバー」を営み、能登ヒバを使って楽器を作る地域材活性化プロジェクト「ATENOTE（アテノオト）」を始動させた古谷隆明（ふるたに）さんが昨年10月、丹南地区で開かれた体感型マーケット「RENEW」に持ち込んだギターを鈴木さんが演奏したことがきっかけとなった。

「二胡はないんですか」。裕美さんが何げなく古谷さんにかけたひと言で、中国の民族楽器である二胡の能登ヒバによる製作が動きだした。東京都の二胡作りの名工に依頼すると、強度を上げた圧縮材では弦を張ると折れてしまう難点が発覚。一時製作断念の連絡があった。しかし、圧縮しない通常材を使うことで克服。震災から1カ月たった2月、あえて塗装をせず日本の銘木の美しさを生かした二胡が完成した。

「能登のものは能登に返そう」。誕生した1本目はチャリティーとして販売され、売り上げは義援金として被災地に贈られた。同プロジェクトでは永平寺町の青山ハープと協力してハープも完成させている。「木の良さを知ってもらい、価値を共有して林業を活性化したい」と話す古谷さんは、接着剤やクギなどを使わないで棚などを組み立てられる加工木材「組手仕（くみてじ）」の支援も行っている。

3月末に裕美さんの手元に届いた2本目は、能登ヒバの美しい木目が印象的で音色は優しい。「弾きこんでいくと音が変わってきた。コンサートが楽しみ」と話す裕美さん。鈴木さんも「今回の出会いで、人のつながりが大切だと感じた。精いっぱいサポートしたい」と意気込みを見せている。3人は「能登ヒバを使った楽器が復興のシンボルとなれば」と口をそろえる。

今年、2stringsは結成10周年を迎える。お互いを「すーさん」、「裕美ちゃん」と呼び合う2人が奏でるハーモニーが自宅ベランダから春風に乗って、桜咲く山あいに響き渡った。

お披露目となる「カルネットコンサート2024上期第1回」は、今月26日午後1時30分から鯖江市文化センターロビーで開かれる。入場料は500円で定員は100人。チケットは同センターと鯖江市役所売店で販売する。

能登ヒバで作った二胡を弾く鈴木裕美さん㊧とギターでサポートする夫の隆志さん＝越前町で

漁、友の船

珠洲の濱野さん　地震

能登半島地震により、石川県内では少なくとも265隻の漁船が転覆や座礁などの被害に遭った。津波で多くの漁船が転覆した石川県珠洲市の飯田港。所有する漁船が転覆した珠洲市飯田町の漁師濱野啓志さん(58)は3月下旬、友人の漁船に乗り、今年初めての漁に出た。

元日の地震後、濱野さんは避難していた高台から歩いて飯田港へ向かった。津波が押し寄せるのを見て「諦める気持ちもあった」と振り返る。暗闇の中をライトで照らしながら歩くと、所有する刺し網漁船が転覆しているのが見え「言葉が出なかった」。

翌朝、もう一度港へ行くと、所有するもう1隻の底引き網漁船も転覆していた。底引き網漁船は昨年11月に中古で購入したばかり。底引き網漁に本腰を入れようとしていた。「家も全壊。船もない。何もない」。ぼうぜんとした。

仲間の漁師の中には仕事を辞める人もいた。それでも濱野さんは「自分で取った魚を食べながら酒を飲むのはいい」。この他の仕事は師を続ける道1月末、友人底引き網漁船濱寧さん(49)く乗るか」と北濱さんの漁ることになってもしきれた」と濱野さ

だが、天候ズワイガニのきる3月20日網漁は再開ズンが終わっは「本当はカたかった。少

北濱さ出た濱